

No.1

メルコスール観光振興プロジェクト
運営指導調査報告書

2005年4月

独立行政法人国際協力機構
東京国際センター

東京セ
J R
05-05

序文

アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイの南米4ヶ国は1995年より南部共同市場メルコスールを形成し、関税同盟からより広範な経済貿易共同体へ移行を目指しています。その中で、今般日本人観光客の共同誘致という観光振興策を策定すべく、独立行政法人国際協力機構（JICA）に対し技術協力プロジェクトとしての支援要請がありました。これは、2002年度から開始された地域別研修「メルコスール観光振興セミナー」がきっかけになっています。

2004年11月には実施協議調査団が派遣され、構成4ヶ国との間で実施にかかる討議議事録の署名が行われ、2005年1月14日から3年間の協力期間が開始されました。

JICAでは、通常の二国間における国際約束に基づく技術協力ではなく、いわば多国間協力という特殊性から、懸案となっている事柄を整理すべく協力期間開始直前の2005年1月8日から3月31日まで運営指導調査団を派遣しました。

本報告書は、上記調査の結果を取りまとめたものです。ここに、ご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも本件技術協力の成功のため、引き続きご指導、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

2005年4月

独立行政法人国際協力機構
東京国際センター
所長 小樋山 覚

序 文
目 次

第1章 運営指導調査団派遣の概要	3
1-1 調査団派遣の経緯と目的	3
1-2 運営指導調査団の構成	3
1-3 調査日程	4
1-4 主要面談者	6
第2章 調査結果	8
2-1 プロジェクトの実施体制	8
2-2 対日プロモーション・コンセプト	10
2-3 その他	11
第3章 PMO 開所式	13
第4章 今後の対応案	15
第5章 面談内容要旨	16
第6章 パタゴニア観光資源調査の概要	26
6-1 バリローチェ	26
6-2 カラファテ	30
6-3 ウシュアイア	34
6-4 パタゴニア観光機構	36
6-5 アルゼンチンの観光学科と観光産業	36
第7章 その他観光資源調査	38
7-1 ピリアポリス	38
7-2 プンタ・デル・エステ	39
7-3 プンタ・バジェナ	41
7-4 コロニア・デル・サクラメント	42
7-5 サルト	45
7-6 ブエノスアイレス	52

第1章 運営指導調査団派遣の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

本件技術協力プロジェクトは、平成14年度地域特設研修「メルコスール観光振興セミナー」期間中に、本邦研修のみならず対日プロモーション活発化させる目標の達成のために、あらゆる取り組みを行うことを参加4ヶ国の合意により開始されたもので、協力期間は本年1月14日から開始された。

本件はメルコスール構成4ヶ国を対象としたものであり、まず地域内関係者の合意形成を行うことから、通常プロジェクトの意思決定より時間を要すること、協力期間開始直後から様々な取り組みを行う必要があることから、通常プロジェクト開始後1年後に行う調査時期を前倒しして、今般運営指導調査団を派遣した。

調査の主な目的は、以下のとおりである。

- (1) プロジェクト実施体制を確認する。
- (2) 対日プロモーションのコンセプト案を確認する。
- (3) 平成16年11月の実施協議調査時に有力な観光資源としてメルコスール側より提案された、アルゼンチン・パタゴニア地方の現状を確認する。

1-2 運営指導調査団の構成

山田 健	団長/総括	JICA 東京経済開発チーム長
溝尾 良隆	協力基本計画	立教大学観光学部長
安本 枝美	プロジェクト計画	JICA 東京経済開発チームプログラム・コーディネータ

1-3 調査日程

月日	曜	行程	宿泊地
1月 8日	土	安本団員東京発	
1月 9日	日	モンテビデオ着	モンテビデオ
1月10日	月	在ウルグアイ日本大使館表敬、ウルグアイ観光省訪問	モンテビデオ
1月11日	火	ウルグアイ調整員事務所打合せ	モンテビデオ
1月12日	水	在ウルグアイ日本大使館新年会、ウルグアイ観光省打合せ	モンテビデオ
1月13日	木	JICAアルゼンチン事務所訪問 モンテビデオ→ブエノスアイレス→アスンシオン	アスンシオン
1月14日	金	メルコスール観光特別会議アドホック会合 JICAパラグアイ事務所訪問	アスンシオン
1月15日	土	パラグアイローカルコンサルタント打合せ	アスンシオン
1月16日	日	パラグアイローカルコンサルタント打合せ	アスンシオン
1月17日	月	アスンシオン→モンテビデオ	モンテビデオ
1月18日	火	ウルグアイ観光省打合せ	モンテビデオ
1月19日	水	ウルグアイ観光省打合せ	モンテビデオ
1月20日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
1月21日	金	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
1月22日	土	書類整理	モンテビデオ
1月23日	日	モンテビデオ→ブエノスアイレス	ブエノスアイレス
1月24日	月	アルゼンチン観光庁表敬、移動	モンテビデオ
1月25日	火	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
1月26日	水	在ウルグアイ大使館昼食会、ウルグアイ観光省打合せ	モンテビデオ
1月27日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
1月28日	金	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
1月29日	土	書類整理	モンテビデオ
1月30日	日	書類整理	モンテビデオ
1月31日	月	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月 1日	火	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月 2日	水	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月 3日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月 4日	金	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月 5日	土	書類整理	モンテビデオ
2月 6日	日	溝尾団員東京発	モンテビデオ
2月 7日	月	ブエノスアイレス着 観光分野シニア・ボランティア打合せ サンタクルス州観光局調査	ブエノスアイレス
2月 8日	火	ブエノスアイレス発 バリローチェ着 バリローチェ観光資源調査	バリローチェ
2月 9日	水	バリローチェ市観光局調査 バリローチェ発 カラファテ着 旅行会社調査	カラファテ
2月10日	木	カラファテ観光資源調査 山田団長東京発	カラファテ
2月11日	金	カラファテ観光資源調査 カラファテ発 ウシュアエア着 (山田合流)	ウシュアエア
2月12日	土	ウシュアエア観光資源調査	ウシュアエア
2月13日	日	ウシュアエア発 モンテビデオ着	モンテビデオ
2月14日	月	日本大使館打合せ ウルグアイ外務省メルコスール統合局打合せ ウルグアイ外務省国際協力局打合せ	モンテビデオ
2月15日	火	メルコスール事務局常設事務所打合せ メルコスール事務局技術事務所打合せ メルコスール観光特別会議アドホック会合	モンテビデオ
2月16日	水	メルコスール観光振興事務所 (PMO) 開所式 プンタ・デル・エステ観光資源調査	モンテビデオ

2月17日	木	モンテビデオ発 ブエノスアイレス着 アルゼンチン外務省国際協力局報告 アルゼンチン観光庁報告 JICAアルゼンチン事務所報告	ブエノスアイレス
2月18日	金	在アルゼンチン大使館報告 溝尾団員ブエノスアイレス発	ブエノスアイレス
2月19日	土	資料整理	ブエノスアイレス
2月20日	日	溝尾団員東京着 山田団長ブエノスアイレス発	モンテビデオ
2月21日	月	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月22日	火	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月23日	水	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月24日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月25日	金	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
2月26日	土	資料整理	モンテビデオ
2月27日	日	資料整理	モンテビデオ
2月28日	月	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
3月1日	火	ウルグアイ調整員事務所打合せ	モンテビデオ
3月2日	水	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月3日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月4日	金	ウルグアイ観光省打合せ、アドホック会合	モンテビデオ
3月5日	土	資料整理	モンテビデオ
3月6日	日	資料整理	モンテビデオ
3月7日	月	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
3月8日	火	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
3月9日	水	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
3月10日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
3月11日	金	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ	モンテビデオ
3月12日	土	資料整理	モンテビデオ
3月13日	日	資料整理	モンテビデオ
3月14日	月	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、写真家打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月15日	火	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、写真家打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月16日	水	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、写真家打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月17日	木	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、写真家打合せ	モンテビデオ
3月18日	金	ウルグアイ調整員事務所、観光省打合せ、写真家打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月19日	土	資料整理	モンテビデオ
3月20日	日	資料整理	モンテビデオ
3月21日	月	ウルグアイ調整員事務所打合せ	モンテビデオ
3月22日	火	ウルグアイ調整員事務所打合せ	モンテビデオ
3月23日	水	ウルグアイ調整員事務所打合せ	モンテビデオ
3月24日	木	書類整理	モンテビデオ
3月25日	金	サルト温泉地視察	サルト
3月26日	土	サルト温泉地視察	モンテビデオ
3月27日	日	書類整理	モンテビデオ
3月28日	月	ウルグアイ調整員事務所、観光省挨拶、写真家打合せ、日本大使館打合せ	モンテビデオ
3月29日	火	ウルグアイ調整員事務所、大使館挨拶	モンテビデオ
3月30日	水	モンテビデオ→サンパウロ→	
3月31日	木	→東京	

1-4 主要面談者

(1)メルコスール側関係者

1)観光特別会議アドホック・グループ

Alejandro VARELA	アルゼンチン観光庁多国間関係担当
Patric KRAHL	ブラジル南アメリカ関係担当
Doris PENONI	パラグアイ観光省旅行管理部長
Gloria CAMPOS	ウルグアイ観光省

2)メルコスール事務局

Reginaldo Braga ARCURI	事務局長
Antonio ALVES Jr.	常駐事務局次席代表

(2)ウルグアイ側関係者

1)外務省

Diego ZORRILLA de San Martin	国際協力局長(大使)
Gustavo VANERIO	メルコスール統合局長(大使)
Cristina GONZALEZ	メルコスール技術協力委員会代表

2)観光省

Juan Pedro BORDABERRY	観光大臣
Hector Lescano	モンテビデオ市観光局長(次期大臣)
Alberto Prandi	プンタ・デル・エステ不動産協会会長(次期次官)

(3)アルゼンチン側関係者

1)外務省

Oswaldo A. SCASSERRA	メルコスール技術協力委員会代表
----------------------	-----------------

2)観光庁

Daniel Pablo AGUILLERA	観光庁次官
------------------------	-------

(4)日本側関係者

1)在アルゼンチン日本国大使館

大部 一秋	公使
城崎 和義	二等書記官

2)JICAアルゼンチン事務所

高井 正夫	所長
富永 健一郎	企画調査員(メルコスール担当)
佐藤 やよい	在外専門調整員

3)在ウルグアイ日本国大使館

中村 義博	大使
林 政益	一等書記官

4)JICAウルグアイ・ボランティア調整員事務所

田臥 彰三	企画調査員(ウルグアイ二国間協力担当)
Akemi HISAOKA de IKEDA	在外専門調整員

5) アルゼンチン・パタゴニア観光機構

里見 哲男

アドバイザー(シニア海外ボランティア)

第2章 調査結果

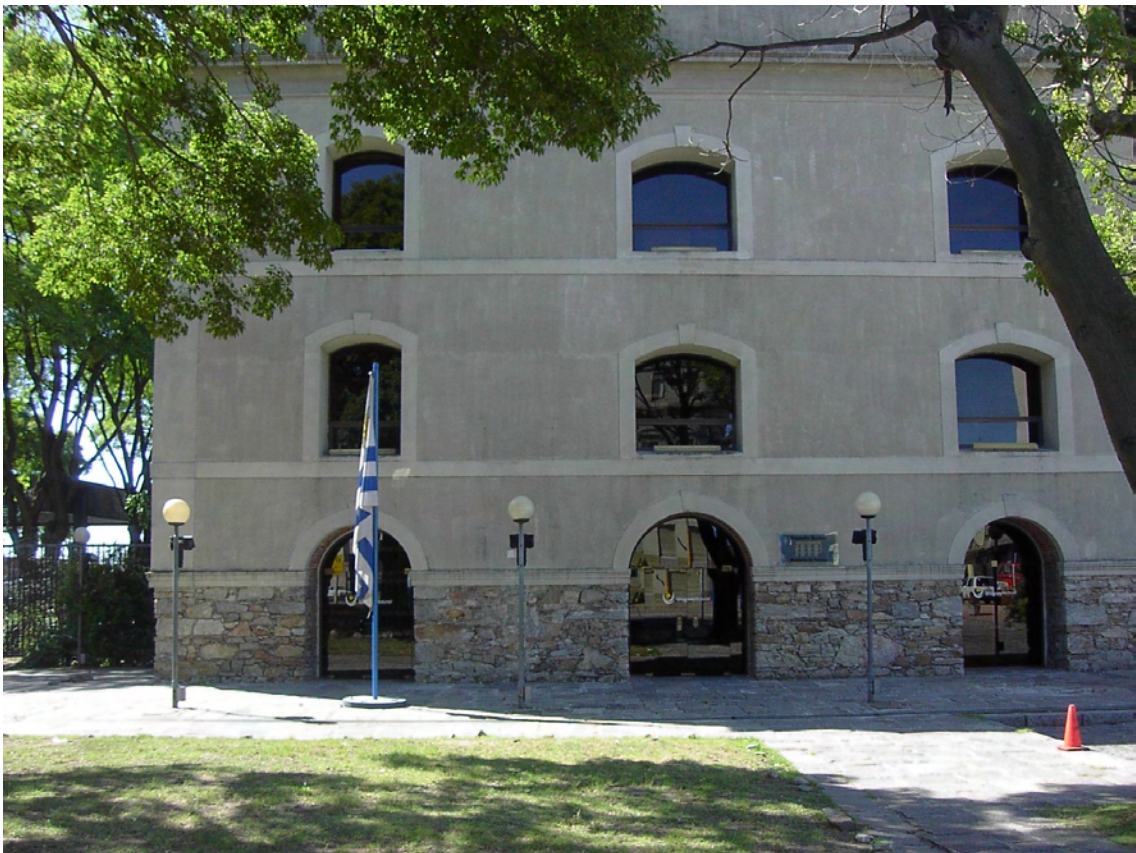
2-1 プロジェクトの実施体制

(1) メルコスール観光振興事務所 (PMO)

ウルグアイ観光省地上階に、先行して現地調査を行っていた安本団員の作業スペースが改修され、2月16日に新たにメルコスール観光振興事務所(Oficina de Promocion Turistica de Mercosur para Japon)として開所した。

事務所の看板について、これから作成する日本の事務所と同様のデザインが望ましいが、観光省庁舎のいわば間借りであり、庁舎内装との調和が求められていることから、観光省他部署と同様の表示となることはやむを得ないと思われる。日本語の名称を付加することも可である由で、今後本プロジェクトのロゴを作成した場合には、それらとともに付加することが望ましい。

事務所長となるべきメルコスール側スタッフについては、現在メルコスール観光特別会議アドホックメンバーのウルグアイ代表が務めているが、先に行われた総選挙の結果を受け、政権交代による観光大臣及び次官を含む幹部人事異動が3月1日付けで行われる予定で、関連してウルグアイ代表の交代が行われる可能性もある由。現時点ではその異動の有無は不明。



ウルグアイ観光省外観



標識



オフィス内看板



メルコスール観光振興プロモーションオフィス（ウルグアイ観光省内）

(2) メルコスール観光振興事務所東京支所 (JPMO)

実際の対日プロモーション活動を担う東京支所については、既に東京都中央区に事務所物件を借り上げ、その運営業務を JICA に関連する公益法人 (財団法人日本国際協力センター:JICE) に業務委託する旨説明し、予定されている日本人スタッフ (プロモーション担当補佐、事務所運営担当補佐) とともにアドホックメンバーの了解を得た。

(3) JPMO 所長

JPMO 所長はメルコスール側が独自予算で派遣することとしていたが、候補者選出を予定していたブラジルが、候補者たちが要求する給与や期待される能力に開きがあることから、選出を断念したことを受け他の 3 カ国に選出を譲っていたが、2 月 15 日に開催されたアドホック会合の場ではどの国も候補者の選出が行えなかった旨報告があった。加えて調査団との協議時に選出のネックとなっている給与負担を JICA に求めてきた。

調査団からはプロジェクト・オーナーシップの観点、既に 2 名の JPMO 所員 (アシスタント所員) については研修員として受入れること、それも前回 1 月のアドホック会合時の要請に基づき特にひとり増員して受け入れることを決定したばかりであることから、再考を促した。

また、アルゼンチン代表から今後所長給与のためのコモンファンドを開始する予定である旨の発言を受け、新年度から所長を派遣することにとらわれず、十分なファンドが積みたてられた段階で派遣し、それまではアシスタント所員が所長代行を行うことを示唆した。これに対し、アルゼンチン代表からは派遣予定の研修員は運営管理能力にやや不足があり所長代行できる人物ではない旨説明があったが、パラグアイ代表からは、派遣予定者は観光プロモーション経験に加え運営管理能力も十分であり、代行も可能であろうとやや慎重ながらも発言があった。

この日深夜に JICA 東京と接続したテレビ会議の場でも、JPMO 所長人事が取り上げられたが、先に人選を行っていたブラジル代表が再度給与負担できる人物の人選を試みることにした。

なお、2 月 16 日の PMO 開所式・懇親会の場でレスカーノ次期ウルグアイ観光大臣からプロジェクトの継続性について心配しないで欲しい旨特に説明があり、山田団長から JPMO 所長人事について支援を依頼したところ、その問題については耳にしているので、3 月以降に行うメルコスール観光大臣会合の場において本件を諮りたい旨説明があり、その結果を連絡いただくこととした。

2-2 対日プロモーション・コンセプト

コンセプトは、4 ヶ国で共同でプロモーション活動を行ううえで、4 ヶ国内の方針の統一や本邦旅行会社への効果的なプレゼンテーションを行う上で必要不可欠である。

しかし、2 月 15 日のアドホックメンバーとの会合の場でも未だ固まらず、重要なことであり拙速に決めるべきものではない旨ウルグアイ代表からコメントがあったが、調査団から、昨年度の事前評価調査時、また先の実施協議調査団からもコンセプトづくりについて

作業を促しており、本調査期間中も安本団員が材料収集の支援を行ってきたところであることから、この場で骨格のみでも策定することを提案した。

アドホックメンバーの中には、コンセプトがキャッチフレーズ作成として捉えているところがあったため、キャッチフレーズとともにそのキャッチフレーズの下にある具体的な行動や、ウルグアイ代表が持参した昨年度本邦研修時に行った日本人の対メルコスール・アンケート集計結果から日本人の南米のイメージや指向が自然、文化、食事、スポーツ等であることをヒントに対日プロモーションのイメージを作成することを促した。その際、溝尾教授から日本人観光客の行動パターン、年齢・性別による指向等のレクチャーを行った。

アドホックメンバーによる1時間弱の協議の結果、「多様性」をキーワードに進めたい旨意図表明があり、更に掘り下げ、メルコスールにおける食事の多様性、街（地域、人種）の多様性、多様な世界遺産・自然遺産を取り上げ、具体的に3月に本邦研修として行われる日本・メルコスール観光分野官民代表者セミナー（幹部セミナー）における対日プレゼンテーションのテーマとすることとして提案を行い概ね合意を得た。

JICA 東京とのテレビ会議には、日本民間関係者の出席者はなかったが、ウルグアイ代表による背景説明と溝尾教授のコメントを行い、双方でコンセプトとして十分である認識を持った。

なお、今後安本団員が幹部セミナーでのコンセプト・プレゼンテーション作成のために必要な照会窓口を民間団体やコンサルタントを推薦いただくことを依頼したが、その場で推薦ができないこともあり、アドホックメンバーを窓口として通すこととした。

2-3 その他

(1) 幹部セミナー参加者

今年度本邦におけるカウンターパート研修が3月20日から27日の間で予定されており、この期間にJPMOの設置とその活動を本邦旅行業界等に広く公告するため、メルコスール各国観光省及び民間旅行業団体幹部の参加を得て公開セミナーを実施する予定。

しかし、2月のアドホック会合の場でもなお参加者が未定とのことだった。参加資格の確認が改めてあったので、官民ひとりずつ、例えば観光省局長級及び旅行業団体代表者級を選出し、週末までにA2A3フォームを提出するよう促した。

(2) JPMO 研修員

アルゼンチン、パラグアイとも内定している旨報告があり、受入時期について確認があったため、アルゼンチンについては3月1日以降1年間、パラグアイは4月1日以降の派遣可能な日時から半年間と伝えた。

(3) トラベル世界旅行社パンフレット写真

JPMO 開設に合わせてトラベル旅行社がメルコスール加盟国への観光商品パンフレットに、JPMO 開設案内と所長の写真提供依頼があったが、JPMO 所長が未定のため、各国観光大臣などの各国観光省を代表する者の人選を依頼したところ、現在モンテビデオに集結

しているアドホックメンバー4人を翌日2月16日のPMO開所式時に写真撮影をすることとした。

(4) JPMO への各国観光資料送付依頼

東京事務所に必要な各国観光資料（映像を含む。）を、プロジェクトの国内活動業務委託しているJICE宛てに郵送することを依頼し、了解された。

第3章 PMO 開所式

2月16日のPMO開所式には、ウルグアイ現・次期観光大臣、駐ウルグアイ中村大使他メルコスール各国大使、ウルグアイ外務省、メルコスール事務局等の参加を得て、ボルダベリー観光大臣、中村大使、山田調査団長の順でスピーチを行った。

観光大臣スピーチにおいて、強調したい3点として、①報告書提出のみで終わる協力ではなく実の伴った協力であることに対するJICAへの謝意、②現在貿易分野で摩擦を起こしているメルコスール域内各国の統合に資すること、③現・次期ウルグアイ観光大臣がこの場に同席することによりプロジェクトへの関与の継続性を公に約束する、との発言があった。

(先の総選挙の結果、大臣の所属政党が下野し、次期大臣所属政党が政権与党となり、3月に政権交代が行われる予定。)

開所式参加者名簿

所属	役職	氏名
ウルグアイ観光省	大臣	Dr. Juan Pedro Bordaberry
ウルグアイ観光省	次期大臣	Dr. Hector Lescano
ウルグアイ観光省	次期次官	Sr. Alberto Prandi
アルゼンチン観光庁	観光振興部長	Sr. Hugo Sartor
ブラジル大使館	大使	Emb. Eduardo Dos Santos
パラグアイ大使館	大使	Emb. Carlos Heriberto Rivero Salcedo
日本大使館	大使	Emb. Yoshihiro Nakamura
メルコスール事務局	事務局長	Sr. Reginaldo Arcuri
メルコスール事務局	駐在代表評議会代表	Emb. Eduardo Amadeo
ウルグアイ外務省	国際協力部長	Emb. Diego Zorrilla de San Martin
ウルグアイ外務省	メルコスール統合部長	Emb. Gustavo Vanerio



PMO 開所式

左から中村大使、レスカーノ次期観光大臣、ボルダベリー観光大臣、山田団長



メルコスール4カ国からの観光業関係者、報道関係者



メルコスール観光特別会議アドホックグループメンバー

前列左からパラグアイ・ドリス氏、ウルグアイ・グロリア氏

後列左からブラジル・パトリック氏 アルゼンチン・アレハンドロ氏

(トラベル世界旅行社がプロジェクト開始に合わせ販売する観光商品パンフレットに掲載する予定。)

第4章 今後の対応案

(1) JPMO 所長の人選

2月17日、アルゼンチン外務省国際協力局及びアルゼンチン観光庁を訪問し、ウルグアイにおける調査を各々報告を行ったところ、両者ともに2月15日のアドホック協議内容をよく把握しており、JPMO 所長人事に関心が寄せられた。

外務省からは、JPMO 所長を東京に派遣する際には、メルコスール域内での外交上のステータスを付与することになり、その場合在京大使館で行っている観光振興業務との整合を取る必要があるとコメントがあった。

また、観光庁からは再度プロジェクト開始初期段階における JICA による JPMO 所長給与負担の可能性の照会を受けたが、調査団からアドホック会合において示したとおり、所長着任が遅れてでも、メルコスール側におけるコモンファンドの設立と、その活用による派遣を促し、それまでの当面の間、JPMO アシスタント所員による所長代行を行うことについて了解を得た。3月4日までにアドホックメンバーの間で合意を形成し安本団員に結果を報告することを依頼した。

(2) JPMO 名称

日本での業務を行ううえで、日本語正式名称はあまりに長いため、日本語/英語の名称を、日本の業界内で認知しやすいように工夫する必要がある。西語名称から「対日」para Japon を外した「メルコスール観光振興事務所」あるいは「メルコスール観光局」と簡素化することも一案。いずれにしても、来日する研修員と関係者間で検討することが必要。

(3) JPMO における意思決定

今後 JPMO が日本市場において観光プロモーション活動を進めていく上で、日常活動のひとつひとつをウルグアイの PMO に諮ると、意思決定に遅れが生じることが予想されるため、日本での活動についての原則決定の後には、JPMO で独自で活動ができるようにすることが望ましい。

第5章 面談内容要旨

(1) パタゴニア・サンタクルス観光局表敬（ブエノスアイレス）

2005年2月7日 15:00～

面談相手：

Mr.Pablo Goddy Director Centro de Informacion

里見 哲男 パタゴニア観光機構アドバイザー（シニア海外ボランティア）

JICA側：

溝尾団員、安本団員、佐藤在外専門調整員

- 1 調査団側から来意を説明。観光資源としての潜在力を持つ旨説明を受け、その現況評価を行うことを求められながら、昨年6月に行った現地観光セミナー実施のため来訪した際に行えなかったパタゴニア地域の視察を行う。
- 2 溝尾教授からカラファテについて現状の問題点についての問いに対し、通貨危機、氷河の大崩落の後、急激に観光客数そのものが増加している旨の説明があった。その増加に伴い、現地従業者数も増え、全体的な需要と供給のバランスが崩れているとのこと。ライフラインとなる、ガス、水道、電気、またホテルや宿泊施設、従業員の住居等全てにおいて供給が追いついていないのが現状である。今後2年以内にインフラの整備をし、観光客の受け入れ対策を万全にしていく計画であるとの説明があった。
溝尾教授からのオフシーズン対策についての問いに関して、カラファテのシーズンは夏季である10月から4月が主流だが、5月からの紅葉、冬場など、シーズンオフの対策も今後の課題と考えている。特に紅葉の時期は気候もよくお勧めできるとのこと。
- 3 現在アルゼンチンの政府幹部にはパタゴニア出身者が多いため、実際にパタゴニアをプロモーションしてゆくには良い環境にあるとのコメントがあった。
- 4 溝尾教授より北海道の状況を引用し、優良な観光資源を有する名所によく見られる、景色1流、食事2流、ホテル3流、サービス4流とならないよう留意すべきこととして伝えた。

(2) 在ウルグアイ日本大使館表敬

2月14日（月）10:30～

面談相手：

中村 義博 大使

林 政益 一等書記官

JICA側：

山田団長、溝尾団員、安本団員

- 1 協力期間が開始した表記プロジェクトの初期段階で決定しなければならない実施体制と対日プロモーション構想（コンセプト）の確認を行うことを主目的としていることを説明。
- 2 ウルグアイ政権交代が予定されているが、現大臣と次期大臣の関係は良く、プロジェ

クトに関する引継ぎも前向きに、しっかりされるようだとコメントがあった。

- 3 ウルグアイの観光資源が世界の文化、自然遺産登録されるよう努力する必要があると思われる。3月に松浦ユネスコ事務局長を公邸に招いたレセプションを予定している。標記プロジェクトにも関わりがあるため、調査団にも参加を求められた。

(以上中村大使)

- 4 3月1日のウルグアイ政権交代を機に、新政権に対し日本側からプロジェクトの経緯を説明することを調査団側から提案したが、ウルグアイ以外のアドホックグループメンバーの承認を得たうえで時期をみて、説明することとした。
- 5 PMOが主体となり、4ヶ国の合意を得た結果をJPMOに伝え、日本市場で官民協議会のサポートを受けながら、プロモーション活動を行うため、JPMOとの連絡体制は万全に整える必要性が確認された。
- 6 プロジェクト成果の指標については、メルコスール域内において旅行業界向けのセミナーが開催されなかったり、官民の連携がなされていなかったこれまでのシステムが、プロジェクトを通じて改善される状況を評価できるよう、官民の連携の組織、制度づくり、人材育成、国、地域づくり、プロモーション活動の進行状況を指標に入れてはどうか。

(3) ウルグアイ外務省メルコスール統合局表敬

2月14日(月) 15:00～

面談相手先：

Gustavo Vanerio	Embajador
Dra.Graziella Reyes de Prieto	Ministro
Cristina Gonzales	Jefe de Secretaria Subsecretaria
Carina Vigilante Vacca	Consultora

JICA側：

山田団長、溝尾団員、安本団員

田臥 彰三 JICA ウルグアイ・ボランティア事務所ウルグアイ企画調査員

富永 健一郎 JICA アルゼンチン事務所企画調査員

池田 朱美 JICA ウルグアイ・ボランティア事務所在外専門調整員

- 1 調査団派遣の目的を説明
- 2 新分野のプロジェクトとして期待しており、プロジェクトの支援を行う旨説明があった。
- 3 JPMOの代表者の選出、JPMO開所式について質問があり、調査団から4ヶ国の合意を得た市場開拓の専門知識がある者を代表者として人選を依頼するとともに、3月24日に日本・メルコスール双方の観光分野の官民代表者を招いて東京にてJPMOの開所式を開催する予定であることを伝えた。
- 4 観光分野は非常に重要な分野として理解しており、ポテンシャルある観光資源をその専門の機関を通じて開発することは意味深く、プロジェクトの成果を期待したい。

- 5 JICAとして現状の問題点を解決し、さまざまなメルコスール域内のプロジェクトを通じて、域内の移動や協力関係が堅固になるよう支援したいことを伝えた。
- 6 富永広域企画員より、メルコスール・ブランドの独立した事務所が初めて2月16日にPMO、3月にJPMOとして開所することを、メルコスール統合局として是非宣伝願いたいとの依頼に対し、外務省、観光省のホームページに情報を載せるなどの対応を考えるとの回答があった。

(4) 外務省国際協力局表敬

2月14日(月) 15:30～

面談相手先:

Diego Zorrilla de San Martin Embajador

日本側:

林 政益 在ウルグアイ日本大使館一等書記官

山田団長、溝尾団員、安本団員

田臥 JICA ウルグアイ・ボランティア事務所企画調査員

富永アルゼンチン事務所企画調査員

池田 JICA ウルグアイ・ボランティア事務所在外専門調整員

- 1 調査団派遣の目的
- 2 政権交代後も引き続きプロジェクト支援を行うとの言葉があった。
- 3 ウルグアイ外務省に対し期待したい支援内容として、特にJICA 専門家を派遣した際に必要なウルグアイ国内手続きである旨説明した。
- 4 ウルグアイの観光の現状についての説明に対し、溝尾教授より、開発の可能性、手段について質問があった。本件プロジェクトのメリットは、二国間協力にとどまらず、メルコスール4ヶ国との協力となり、その成果は計り知れないと評価をうけた。

(5) メルコスール常設事務局(CRPM)表敬

2月15日(火) 10:30～

面談相手先:

Antonio Alves Jr. Consejero Presidencia-CRPM

Lic.Sebastian Delgui Asesor Presidencia-CRPM

JICA 側:

山田団長、溝尾団員、安本団員

富永アルゼンチン企画調査員

池田 JICA ウルグアイ調整員事務所在外専門調整員

- 1 調査団派遣の目的
- 2 現状のメルコスール観光振興の具体策に苦勞しているため、PMO に派遣される JICA 専門家には期待している。プロジェクト期間の節目に成果をモニタリングし、その結果

を他の分野でも有効利用したい。

- 3 メルコスールの代表者としては観光というまったく知識の無い分野で JICA とのコラボレーションに期待している。支援する旨説明があった。
- 4 メルコスール技術協力プロジェクトごとの JICA 担当事務所の照会に対し、プロジェクトが開始されるまでは、全案件とも JICA アルゼンチン事務所が調整するが、開始後はプロジェクトごとに担当事務所が CRPM とカウンターパート関係となり、コンタクトをとりあうことになることになると富永企画調査員より説明がされた。(観光振興プロジェクトはアルゼンチン、包装技術開発調査はアルゼンチン、農業はパラグアイ事務所。)
- 5 お互いコンタクトをとることは重要。協力していきたいとコメントがあった。

(6) メルコスール事務局表敬

2月15日(火) 11:00～

相手先：

Reginaldo Braga Arcuri Director

JICA 側：

山田団長、溝尾団員、安本団員

富永アルゼンチン事務所広域企画調査員

池田ウルグアイ・ボランティア調整員事務所在外専門調整員

- 1 派遣の目的を調査団側から説明した。
- 2 メルコスールとして工業開発、貿易振興のプロジェクトは実際に活動が始まっているが、観光開発プロジェクトは革新的で新しい分野と認識している。本プロジェクトについては、16日の開所式を機に公的に宣伝することを支援する。成果を期待しているとのコメントがあった。
- 3 富永広域企画調査員よりメルコスール・ブランドの独立した事務所として初めて2月16日 PMO、3月に JPMO が開所することとなり、また5月のブラジル・ルーラ大統領の訪日時には是非 JPMO 訪問するよう促して欲しい。(アルクエリ氏はブラジル出身の4代目メルコスール事務局長。)

また、皇室の紀宮清子様婚約を受け、新婚旅行先としてメルコスール地域が名乗りであることは、日本人観光客誘致のプロモーションとなると説明した。

- 4 本プロジェクトは、開発としての意味だけではなく友好関係を結ぶための一つのステップとなる。また他のプロジェクトにもインパクトを与えるものとなるだろう。

(7) アルゼンチン外務省表敬

2月17日(木) 11:00～

相手先：

Osavaldo A.Scasserra Coordinador del comite de cooperacion Tecnica del Mercosur

Lara Jensezian Secretaria de Embajada, Direccion del Mercosur

他 2 名

JICA 側：

山田団長、溝尾団員、安本団員

Juan Carlos YAMAMOTO JICA アルゼンチン事務所員

富永アルゼンチン事務所企画調査員

佐藤 JICA アルゼンチン事務所在外専門調整員

- 1 モンテビデオ PMO 開所式において、ウルグアイ観光大臣及び次期観光大臣が同席し、政権交代があってもプロジェクトの継承がスムーズに行われるよう配慮するとの説明を受けた旨調査団より説明した。
- 2 調査団派遣目的の説明。また、3月に行われる JPMO 開所式にあわせ、日本・メルコスール観光分野の官民代表者を招へいする幹部セミナーが開催されるが、JPMO メルコスール代表者の選出がないまま開催する旨説明した。日本側特に観光業界に対するインパクトの観点からも、できる限り早急な JPMO 代表者の選出を依頼した。
- 3 JPMO へ派遣するメルコスール代表者を派遣する義務があることは理解しているが、経費について、4ヶ国コモンファンドが無いため、これから各国観光庁、観光省が決定し、法律化していく必要がある。
- 4 パタゴニア視察の印象、概要についてコメントが求められたため、溝尾教授より次のとおり視察報告がなされた。
 - ① 総合評価と観光地特性
(評価基準—イグアスの滝=SA (世界的：世界中の人が、生涯に行きたいと思うところ。)
バリローチェ：A リゾート地。滞在地。
カラファテ：S 氷河観光
ウシュアエア：A+「世界の果て」、南極への基地
* 3地区の特性は、⑥を参照
 - ② 3か所の共通点
観光が急成長。人口も急増中。そのために、観光基盤施設や観光政策が追いつかない。特にカラファテ。
 - ③ 新しい動き
カラファテに空港ができたことでバリローチェと結びつく。バリローチェが、今後、パタゴニアの入り口になるか。
 - ④ 観光ルートの提案 (南米周遊旅行)
○ブエノスアイレス～ウシュアエア～南極 (復路は逆コース)
○リオ・デ・ジャネイロ～イグアス～ブエノスアイレス～ボリビア～ペルー
から
ブエノスアイレス～カラファテ～ウシュアエア
ブエノスアイレス～カラファテ (湖、国境越え)～パイネ (チリ) への転換を図る。
氷河観光の誘致力が大。

○テーマ別コースへの組み入れ

a エコツアーあるいはバードウォッチング ⇒ バルデス半島

b 鉄道の旅 ⇒ ウシュアイアの「世界の果て号」

⇒ バリローチェの蒸気機関車

c 5つ星ホテルの旅行

ブエノスアイレス ⇒ シーサーパーク

バリローチェ ⇒ ジャオジャオ

カラファテ ⇒ ロス・ノートス

ウシュアイア ⇒ ラス・アヤス

⑤ 観光ルートの提案 (パタゴニア単独)

○ ブエノスアイレス～バリローチェ～カラファテ～ウシュアイア～バルデス半島
～ブエノスアイレス

ウシュアイアは、「地球の果て」へ行くことと、魚介類を食べるのが目的。

国立公園ツアーは、他地区の方が優れる。

チャルテンの売り出しトレッキング

変形パターンとして、

○ブエノスアイレス～バリローチェ～バルデス～ブエノスアイレス

○ブエノスアイレス～カラファテ～ウシュアイア～ブエノスアイレス

○ブエノスアイレス～バリローチェ～カラファテ～ウシュアイア～ブエノスアイレス

*バルデス半島に行かないので、ウシュアイアではペンギンまで見せるビーグル水道クルーズにする。

⑥ 観光ルートの提案 (パタゴニアとチリの連携強化～ペルーに逃げないために～)

○バリローチェ～3湖越え～プエルト・モン～オソルノ (チリ富士)

○カラファテ～チャルテン・フィッツ・ロイ～プエルト・ナタレス～パイネ山

○ウシュアイア～プンタアレーナス

⑦ 日本人旅行者と旅行時期

客層の中心は、50代以上。時間と金の関係。

子供連れの家族は、バルデス半島と氷河。

日本の観光シーズンが、パタゴニアがオフの問題。

○7～8月 日本の夏休み

冬の氷河観光を売り出す。日本では北海道の流氷ツアーが人気。冬も大丈夫。

○4月末～5月 日本はゴールデンウィーク

メンドーサのワイン祭り、メンドーサ南部の温泉、バリローチェの4月末から5月3日までのタンゴ・フェスティバル、カラファテの氷河

○12月末～1月上旬 日本の冬休み

⑤のパタゴニア・コース

○時期を問わない層

40代以上の主婦、60代以上の男性

⑧ 3地区の特性と方向

○バリローチェ

a ヨーロッパに匹敵するリゾート地への整備

- ・中心街からの車の締め出し
- ・建物景観の統一
- ・夜、楽しく水準の高いブエノスアイレスに匹敵するショーの開催
- ・夏の音楽祭や演劇祭
- ・会議場の整備
- ・スキーに依存しない冬の観光

b 観光的特性の創出

湖クルーズで、チリへの国境越え

○カラファテ

氷河観光依存からの脱却を目指す。

a まちをリゾートとしての整備

景観の統一

地区別整備計画の策定

歩道の整備

b チャルテン・フィッツ・ロイとの一体性

トレッキング

パイネ山の魅力

○ウシュアイア

- ・工場誘致したため、リゾート性に乏しい。
- ・「世界の果て」、「南極への基地」以外に、魅力はない。スキーは国内用。
- ・ビーグル水道クルーズはバルデス半島を訪問しない場合必須。ペンギン島は優良。
- ・カラファテに行かない人には、氷河を見せる。氷河に対するツアーが現地では弱い。
- ・バルデスやカラファテに行った人には、エスタード島を案内。

(8) アルゼンチン観光庁表敬

2月17日(木) 15:00～

相手先：

Daniel Pablo Aguilera Subsecretario

Alejandro Varela Coodinador de rerlaciones Multilaterales

Mariana Navarro Asesor de Gabinete

他1名

JICA側：

山田団長、溝尾団員、安本団員

富永 JICA アルゼンチン事務所企画調査員

佐藤 JICA アルゼンチン事務所在外専門調整員

里見シニア海外ボランティア

- 1 PMO 開所式が執り行われ、3月開所予定の JPMO を通じ日本市場への戦略展開の本部基地としての役割を担っていく旨説明した。事務所の開設と共にその内容の充実が今後の課題である。
- 2 日本がメルコスールに関心をもっていることはありがたく、アルゼンチンとしてもプロジェクトに対し支援する。
- 3 JPMO メルコスール代表者の人選、経費についてアルゼンチンとして、外務省、観光庁がともに対応する。アルゼンチンとしてまとめた意向をメルコスールへ上げていく予定であるとの説明がなされた。経費については、高額なため、メルコスールとしてのコモンファンドが無い現状では、実際に工面するのは困難であり、プロジェクト開始当初だけでも経費負担願えればとの説明に対し、プロジェクトの継続の観点から、自助努力していただくために人件費は派遣国が負担すべきであると説明した。
- 4 コモンファンドが成立するまで、研修員枠で派遣される 2 カ国（アルゼンチン、パラグアイ）のアシスタントスタッフが当面代行するという形態をとるしかないのではとの示唆に対し、アルゼンチンとして、経費面、人選面解決に努力したい。
- 5 調査団から今回の人選および経費問題の解決は、メルコスールが実質的に一体化する良いチャンスであると理解していると伝えた。
- 6 溝尾団員からアルゼンチンとしての観光開発の潜在的可能性として第 6 章のとおり報告した。

(9) 在アルゼンチン日本大使館公使主催昼食会

2月18日（金）12:00～

レストランハプニング

先方：

大部 一秋 公使

城崎 和義 二等書記官

高井 正夫 JICA アルゼンチン事務所長

山田団長、溝尾団員、安本団員

里見シニア海外ボランティア

観光は、他の産業と違い今そこにある資源を有効活用し、消費を促すという特殊な分野。これまで、豊富な観光資源に頼ってきたアルゼンチンは、今後メルコスールのリーダー的な役割をブラジルと共に担っていくことが重要となるだろう。支援する JICA も観光分野の持つ、優雅なイメージを払拭し、雇用を生み、地域活性化に結びつく重要な経済技術協力分野と認識して欲しい。また、観光というより“旅”は、最終的に人と人との交流が盛んになり、友好関係ができ、平和な世界へ導くという重要な産業であるといえる。

(以上大部公使)

(10) アドホック会合

3月4日(金) 11:00~15:30

ウルグアイ観光省会議室

先方:

(アドホックグループメンバー)

Alejandro Varela	Coordinador de Relaciones Multilaterales Secretaria de Turismo de la Nacion de Argentina
Mariana Navarro	Asesor de Gabinete Secretaria de Turismo de la Nacion de Argentina
Doris Penoni	Directora Desarrollo Operativo Turistico / Senatur de Paraguay
Gloria Campos	Acuerdos y Resoluciones de Ministerio de Turismo del Uruguay
(その他)	
Natalia Galeano	Paraguay 帰国研修員
Rosana Grinwald	Jefa de producto rural-ecologico de Ministerio de Turismo del Uruguay
Sencion Irazabal Gustavo	Jorge de PROBIDES(Uruguay)幹部セミナー参加候補者 (ウルグアイ)

安本団員

1 3月25日(金)15:00 から東京都内で開催される JPMO 開所式において本プロジェクトを紹介するセミナー発表資料の検討。本プロジェクト開始前に受入れた帰国研修員であるナタリア・ガレーノ氏よりプレゼンテーション資料(案)の発表、作成にあたった経緯、コンセプトの説明をし、会議出席者より得た評価を反映させたものに修正する。

原案が概ね了解されたが、写真の差し替え、テキストの内容の変更は、各国より直接ナタリア氏に訂正の依頼がある。修正依頼については、3月8日までとする旨ナタリア氏より各国代表者に説明があった。

また、日本側の評価についても同様、8日までにコメントをいただきたいとの依頼があった。

2 発表者について、調査団から4ヶ国から各国1名ずつ発表を行うことを提案をしたが、メルコスールとして1名の代表者が一貫してプレゼンテーションを行うことにプレゼンテーションの意味があるとの強い主張があった。ついては、現在確定しているパラグアイからの JPMO 研修員候補者に依頼することとなった。資料を作成したナタリア氏と今後詳細の打ち合わせを行う。

3 プレゼンテーション時に配布する資料は次のとおり。

a)ナタリア氏から提出を受ける最終成果品をプリントアウトしたテキスト

b) 昨年の地域別研修期間中に出品した JATA 世界旅行博用に作成したパンフレット

c) ゼネラルパンフレット A4

d) ダイジェストパンフレット A5

当開所式において招待客向けの小さなパンフレットを作成したいとの意見が出て、ナタリア氏にフォーマット作成依頼済み。印刷を東京に依頼するか、またはパラグアイの業者に依頼するかは別途検討することとなった。フォーマット作成経費は JICA 負担となる見込であることを回答した。

プレゼンテーション時に流す BGM について、各国より音楽 CD を持参することで合意を得た。

- 4 開所式のプレゼンテーションには、日本の旅行会社、マスコミ関係者、在京大使館から 400 名ほど招待する旨説明したところ、招待者の大まかなリストの事前提供依頼があった。
- 5 JPMO 代表者、アルゼンチン JPMO 研修員の派遣時期や派遣期間の状況確認を行ったところ、いずれも 4 月 27 日開催予定の RET アドホック会合において協議、次期観光大臣会議で JPMO 代表者の経費負担の解決法の協議を経て、代表者選出方法、研修員派遣時期、期間を決定する予定との回答があった。
- 6 観光プロモーション活動に使用する写真データや動画の収集にかかる契約依頼に関して、4ヶ国全ての写真データを持ち合わせている写真家を探すのは極めて困難。アドホックグループメンバーが各国の写真家の中で、既に好ましい写真データを所持している写真家を安本団員に紹介し、その後契約することとした。動画については、プロジェクトのために新たに作成するにはあまりにも期間が短く、作成プロダクションの公募、契約は困難。ついては 3 月末まで各国写真データ収集のための写真家の紹介、契約金額の提示、契約ため、その紹介は次週末 3 月 11 日までに安本団員に行うよう依頼。JICA から各国 5,000 ドル程度の金額にて契約するよう依頼済み。
- 7 メルコスール観光振興にかかる統一ロゴデザインについては、プレゼンテーション資料の発表を受け、統一性をもつことが重要であるとアルゼンチンからコメントがあった。好ましいデザイナーに案、金額の提示を受け、契約を行うということで合意した。安本団員から 5,000 ドルから 10,000 ドル以内を相場として提示した。(ウルグアイ観光省グロリア氏、ロサーナ氏との協議の結果相場として提示された額)
- 8 開所式にあわせた各国観光パンフレット、CD、DVD 等の資料送付の再依頼。次週 3 月 10 日までに各国送付するよう依頼した。
- 9 ナタリア氏のレポート作成にあたり、各国の民間企業からの情報収集にあたって、再度アドホックグループメンバーの協力を依頼した。アンケート調査回答依頼に関して、アドホックメンバーに調査内容のデータを送信し、メンバーを通して昨年 6 月、7 月に各国で行われた観光セミナー出席企業等に問い合わせを行い、その回答をナタリア氏に報告することとなった。
- 10 今回のアドホック会合にブラジルからの出席が無かったが、協議内容について、グロリア氏、安本より報告することとした。

第6章 パタゴニア調査報告

パタゴニアの範囲にはさまざまな説があるが、アルゼンチン側はコロラド川から南、フェゴ島までの約 80 万平方キロメートル。南緯 40-60 度。アンデス山脈の東は多雨、西は乾燥。アルゼンチンの 99%は平坦で茫漠とした樹木のないパンパ。牧羊地帯。

名前の由来は、原住民の巨大な足を見て、パタゴンといったことから。1881 年、両国に分割。英国ウエールズから移住から始まる。

6-1 バリローチェ (リオ・ネグロ州)

(1) 概要、歴史

正式名称はサン・カルロス・デ・バリローチェ。「店を出したカルロスさんと山の後ろに住んでいる人々」の意味。標高 770m、人口約 12 万人。人口増加中。すべて観光業のまち。都市計画がないままに発展してしまう。大小 30 の湖がある。

1903 年にドイツ人が入ってくる。そのあと、大量にスイス人。チリから来ていたマチュピ人を追い払う。8月の移民の日には、欧州 9 か国が、パレードなどに参加。

最近、先住民の文化を見直し始める。クラン料理 (ポリネシアンからの料理で、大きな葉で食物をくるみ、蒸して食べる)。民減品の販売。国立公園内、5 世帯を集める。

スイス人が入植した関係から、木造シャーレー風のホテルやレストラン、スイス・フォンデュ、チョコレートと、景色とともに、「南米のスイス」と呼ばれる所以。

(2) 観光の状況

チーズ、鱒料理でも知られる。鱒釣りも有名。冬はスキーが楽しめる。

アメリカのアспенと「チリ富士」で有名なチリのオソルノとの間で姉妹都市関係。

「世界のリーディング山岳リゾート」：大陸ごとに 1 か所選ぶ。南米で選ばれる。

北米：ベイル、ヨーロッパ：ヴァル・ガルデーナ (イタリア)、オセアニア：クィーズタウン、アジア：(北海道から選出される予定)

修学旅行の学生が多く繰り出し評判を落としていたが、経済危機後、学生が大幅に減り、質の高いリゾート地となった。(アルゼンチンの修学旅行は、学年ごとに生徒が訪問地を決定し、大騒ぎをすることが目的で、親や教員も数名参加する。)

2002 年 1 月の経済危機まで物価が高く、国内からが 90%であったが、今は 70%。外国人は、ブラジルとチリが多い。年間、70 万人。夏は平均 4 日間、冬は 1 週間のパックで滞在する。

(3) 気象条件と旅行シーズン

年間降雨量 1,100mm と少ないうえに、オフシーズンに降る。

夏：12-2 月 暖かく、雨が少ない。午後 10 時まで明るい。

秋：3-5 月 温度は 4°C~13°C と変化する。雨が多い。

冬：6-8 月 降雪があり、0°C~10°C。

春：9-11 月 温度が高くなり、雨も少なくなってくる。7°C~20°C

30年前、当時は、冬のリゾート。夏のリゾートは、1980年代から。11月は修学旅行最盛期17万人がきていた。いまは大幅な減少。

4、5、9月がオフ。5月3日は、バリローチェが建設された日。この日より前、1週間はタンゴの祭り。紅葉もよいが、この時期、雨が多く、風も強い。

(4) 交通関連

○航空

ブエノスアイレスから1日10-12便。ただし、第1便が午前10時発と遅い。他の都市とも連絡便あり。ブエノスアイレスから1,720km、2時間20分のフライト。天気がよいと、今回の調査時のように湖をサービスで一周する。

○空港

1995年、原野の中に新設。建物のデザインが良い。レンタカー会社、宿泊施設の予約など、ブースがよく組み込まれている。土産店、カフェテリア、待合室も明るくて気持ちが良い。

タクシーの料金も明確。空港からバスの便のみよくない。空港は民間経営なので、タクシーやバスの乗り入れはお金をとられる。中心地まで17km。

○鉄道

大西洋までディーゼルの列車あり。観光用には、毎日30キロ先まで、蒸気機関車を運行、現地でハイキングして、同列車で戻ってくる。

3月からブエノスアイレスまで列車が走る。36時間かかる。来訪した中国の首相が、鉄道の整備を約束した(中国の首相がきたので、アルゼンチン全体は、観光客誘致も、日本より、中国に目が向いている)。

○船

湖の船は、いまは市街のサンカルロス港からは出ていない。国立公園局への支払いの件でもめて、運行の停止を受けている。

○道路

スイス・コロニーの未舗装道を舗装して、小サーキットの距離を、往復、同じコースをとらないようにする。海岸沿いにも、1本、道路をつくる。

多い車への対抗策は考えていない。市長にそのような考えは、毛頭感じられなかった。しかし、中心地区は、2ブロックまでは、歩道を広げるという。路上駐車をなくして、車の往來を楽にしたいという。

市民の車が4万台、ピークに観光客の車が5万台という。

タクシー会社 融資をして、車の買い替えを勧めている。

(5) 観光関連業者

○レストラン 約200軒

○宿泊施設 365軒 21,000室。ほかにキャンプ場と把握できない別荘がある。

種類別星印評価は以下の通り。レーティングは市で行う。

	計	5つ星	4つ星	3つ星	2つ星	1つ星
ホテル	68	5	7	15	11	28
産業保養所	16					
ホステリア	53			15	19	19
バンガロー	65			17	31	17
タイムシェア	4					
アパートメント	68			14	33	21

アパートメント	A 7	B 9	C 6
低廉施設	A 11	B 8	
ユースホステル	22		
カテドラル地区	19		
国立公園内ロッジ	11		
キャンプ場	18		

さらに、夏に閉鎖（スキー場地区）、冬に閉鎖（湖畔沿い、バンガロー）する宿泊施設がある。滞在中に5つ星のジャオジャオホテル、25室のカスカダホテルを視察し、コンコルドホテルに宿泊した。

ジャオジャオホテル：

ゴルフ場に囲まれ、背景にロペス山とカピータ山と外観もよい。周囲に散策できる森がある。

カスカダホテル：

敷地内に滝があり、森林での散策、プライベート・ビーチもある。

コンコルドホテル：

部屋は、ガタン、ゴタンと大きな音のする旧式エレベーター。511号室はベッドのすぐそばがエレベーターなのでうるさい。部屋は暑いが扇風機はない。ベッドは小さい。洗面所は狭い。トイレの水はいつもすこし流れている。バスの栓がなく届けてもらう。つまり細かいチェックをしていない証拠。チェックアウト10時はリゾート地にしては早すぎる。4つ星の評価は疑問。

○旅行者

65社あり。40社ほどは、安定しているが、残りは撤退したり新規に参入したり。多くは、ブエノスアイレスのオペレーターの下請け。現地手配。一部は、ツアーを外へ出している。

○カテドラルスキー場

6月末から8月一杯。南米、特にブラジルからが多い。総延長103キロで、南米随一。初心者用25%、中・上級用60%、残りは専門家用。

○会議場

大規模のものはない。現在5つ星のパナメリカーノが800人収容の会議室を建設中。湖畔に大きな駐車場を作る構想はあるが、具体化されていない。

○ゴルフ場

18Hが2か所、もうひとつできる予定。

○カジノ

2か所。大衆的。10時から4時まで。喫茶店、ディスコ、保育所もある。

○両替

日本円の両替は不可能。

(6) 景観政策

1976年までは、ブエノスアイレスにならって景観規制をしていたが、77年から独自につくった景観条例で、景観の統一を図っている。住宅地、街中、湖畔とか、地区の特徴別に定めている。たとえば、

- ・観光地区には、工場建設は不可。
- ・街中は建築規制があり、建築階は7階以下。これより高層にする場合、敷地が広くする必要はある。(建蔽率と容積率の適用)
- ・湖近くの建築可能階はさらに低くなる。駐車場併設が義務付けられている。
- ・砂浜は、公共用地とする。
- ・屋根に規制はないが、三角屋根にしないと除雪ができなくなる。
- ・色の規制はない。
- ・看板を立てる場合は、保有している土地のみにたてる。大きさは2m以内、木材を使用、照明の取り付けは不可。
- ・照明柱、電話ボックスに、木材を使用する。

(7) 訪問先

○市役所—1940年の建物。国の指定文化財。木材をよく使用している。調査団歓迎の日本の国旗を掲げる。市役所前の広場は、湖の眺望もよい。

○パタゴニア博物館—小規模。

○店の営業時間

13時から16時まで、シエスタでクローズ。夕食は早くて20時から。

○ミトレ通り—リゾートらしいにぎやかな通り。チョコレートの店舗が興味をひく。

○カンパリオの丘—湖、山の眺望。15ペソのペアリフトで山頂へ。入場料表示の札、木の名前(原産地かどうかの記号もあり)、電話ボックスなどのデザインはよい。

○植物

日本で庭に植える「鉄線」が至る所にみられる。パタゴニアが原産地。

○みやげ物

・チョコレート：製造の歴史は古く、質も高いので有名。市内に多数の店舗がみられる。空港にも専門店あり。

・日本で、女性の化粧品で高価な(小瓶で5,000円)がローズヒップオイルわずか600円。ほかにスープ、茶、ジャムにローズヒップを使用。たくさん取れる。

○その他未訪問の地

- ・オットー山 展望所
- ・アランジャレス(天人花)の森
- ・カテドラル山 山麓は、冬季にスキー

・エクスカージョン：7つの滝、フリヤス湖、トロナドル山へ、それぞれコースあり。また、3つの湖を通りながらチリへ抜けるコースも人気がある。

(8) エンプロツール

半官半民の観光推進機構。10名で意思決定をする。行政4名－観光局長、副局長、法律、他1名。民間6名－レストラン、交通機関、旅行業、4つ星・5つ星ホテルグループ、その他ホテルグループ、ホステリア、スキー場地域。州の観光協会はオブザーバー。会費は、徴収された税金から（消費税は21%）。年間約100万ペソの予算。

4年前から、スペインのコンサルタントが入って、ここでの全活動を、スキー、ネイチャリング、アウトドアスポーツ、エコロジーとに、市場を国内、隣国、アメリカ、ヨーロッパに分けて、活動と市場との関係とに売り出すかを決めた。

アウトドアに重点をおく－関係者が集まって、「チーム・ビルディング」を結成し、検討中。

パタゴニア観光機構との関係はない。同機構は州全体のことを考えるのでバリローチェのことは考えない。その州が集まってパタゴニアをどうしようかいうのだから、さらにバリローチェは遠くなる。バリローチェはアルゼンチンを売り出すときに、ヨーロッパなどへは単独で参加をする。

(9) 連携の観光ルート

パタゴニアの入り口の位置づけを明確にする。

カラファテとは3年前に初めて航空路線ができたばかり。現在は1日1便。このルートの開業で、バリローチェがパタゴニアの入り口になる。これまでは、カラファテがパタゴニアの入り口で、バリローチェはチリと結んでいた（4年前発行の「地球の歩き方」でも、バリローチェは中部アルゼンチンに入っていて、パタゴニアとは別になっていた）。

アルゼンチンの経済危機以降、チリより物価が安くなったので、チリからの旅行者が増えている。サンチャゴから週3便入っている。

(モデルルート)

バリローチェ－3湖越え－峠－チリのプエルト・モン－フィッツ・ロイ－サンチャゴ

6-2 カラファテ（サンタクルス州）

町名は植物の名前。パタゴニアを代表する花。町は1929年に骨格ができる。氷河の堆積であるモレインの堰止湖である、琵琶湖の2倍のアルヘンティノー湖の南岸。4年前に4千人の町がいまでは1.2万人。人口急増中。そのうち観光直接従事者は2千人。

(1) 交通関係

○空港

バリローチェから1日1便、約1,130kmで1時間50分。ブエノスアイレスから6、7便、リオ・ガンジェルスとは3便、ウシュアイアともあり。2000年12月に空港が開港。それまではリオ・ガレゴスからバスだった。ロンドン・サプライ社が経営。新空港だが

狭い。急増を予想しなかった。2006年までにターミナルと滑走路を拡張する。

○バスターミナル

現在のターミナルを町の中心から郊外に移転する予定。バイパスをつくり、街中の車を減らす。

○氷河観光船

ロカ・バンデロまで43キロ。高速船で快適。席は自由席。

○タクシー運転手

年配者は英語を話せない。

(2) 観光業者

○旅行業者 36

○レンタカー会社 11

○ハンディクラフト 34

○レストラン 31

○ステーキ店 8

○ピザ店 7

○カフェテリア・スナックバー 17

○チョコレート店 9

○両替 日本円両替可能

○宿泊施設

	計	4つ星	3つ星	2つ星	1つ星	未決定
ホテル	16	4	4	4	1	3
ホステリア	19		9	3	2	5

アパートホテル 4

キッチン付ロッジ 2

ツーリストホテル 3 A2 B1

ロッジ 20

コテージ 22

ホステル 13

キャンプ場 9

牧場宿泊 8

*ホテルとホステリアの差は規模のみ。最高級の「ロス・ノートロス」がホステリアの3つ星。

*空港から、市街地に向かうところに「コロナホテル」建設中

*12月開業の「エオラホテル」はフリヤ山腹牧場の中。フィッツ・ロイの眺望、乗馬やトレッキングを楽しむ。24室。3食、すべての活動付、空港送迎あり。一人1,000USドル。

○宿泊施設についての関係者ヒアリング

①宮里イン

日系人の経営で4部屋。1泊80USドル(朝食込み)夕食を頼はカレーライスで50ペリ、

ランチのお握りが 25ペリ。(町ではパスタが 12ペリ、ステーキが 25ペリ。)
日系の旅行業者、ロコミ、インターネットからの予約。昨年 11 月、開業。

②ロス・ノートロス

32 室。従業員は 80 名 (活動プログラム指導員含む)。平均年齢 27 歳。

15 年前に開業。以前は昼食や喫茶のみの利用者も受け入れていたが、宿泊者への配慮から、現在は宿泊者以外は利用できない。6-8 月のオフは閉鎖。前後の 4、5 月、9 月は 60%の稼働。ヨーロッパ人が多い。次いで、メキシコ、ブラジル。中国、韓国からもある。日本は少ない。

3 食+軽食 2 回、空港送迎、すべての活動、アルコール以外の飲み物を込みで平均 1 泊 1 人 600USドル。

2 泊滞在が多い。部屋のタイプにより料金が変わる。すべての部屋から氷河が見える。

* 日常の生活を忘れるために、部屋に、TV、電話はない。リビング部屋にも、本は置くが、雑誌はおかない。新聞もない。携帯もかからないようになっている。インターネットができるようにパソコンを 1 台おいてあるが、仕事や日常のことはここでは忘れてほしい。

* 乗馬、ラフティングなどのグループをまとめて、会社にする。

* チャルテンにあたらしいホテルを 3 月にオープンする。

③ 宿泊ホテル「シエラネバダ」

ホステリアで 3 つ星。

雰囲気：非常に良い。道路より一段と低く、道路との幅も十分とってあり、その間をラベンダーで飾る。背後には湖があり、さえぎる建物はない。

部屋：広い。その他もよい。洗面台、洋服入れがやや狭い。

設備：インターネット利用可。階段がいくつもあり、荷物運びにはたいへん。

フロント：てきぱきしている。

その他：毎日、ワールドニュースを届ける。

* あと 4 室を増設して、ホステリアからホテルへ転換する予定。

(3) 観光の状況

1970 年代から、氷河観光始まる。観光客は、去年は 20 万人、今年の 10 月から 1 月までのシーズンで 9 万人。増加原因は、空港の開設、経済恐慌の終了、16 年ぶりの氷河の大崩壊が大ニュースに、大統領、観光長官がこの州出身で観光に力を入れている、治安が良いことがあげられる。

5~9 月がオフシーズン。5 月は紅葉があるし、冬でも氷河は見る事ができる。オフシーズンには、2 か月ほど、70%のホテルが閉鎖してしまう。年間の降水量は、カラファテはわずか 200~300mm、山沿いで 1,000mm。氷河の山は、6,000mm。

2 月には、学校休みで、アルゼンチンから来るが、客層の多くは、ヨーロッパ人。スペイン、イタリアが多く、ドイツ、アメリカが続く。フランスは団体が多い。ブエノスアイレスの人は、遠い、航空運賃、ホテル代が高いため、あまり来ない。

一般的な観光ルートは、エル・チャルテン（パイネ山を見ながらトレッキング、氷河見物）への日帰り1泊。ペリート・モレノ氷河 日帰り1泊。チリ側からパイネ山。

アメリカ人は、パイネやチャルテンが多く、安いツアー。

ヨーロッパの人は、ウシュアイアまで行く。高級志向。

氷河観光は9時から16時まで、観光船でウプサラ、オニール、スペガッチーニの3氷河を見る。なかなか良い。

陸路で、氷河の崩壊があるペリート・モレノ氷河の見物。小さな氷河の崩壊は常に起きていて、崩壊の音を聞くのも、臨場感があって良い。

ペリート・モレノ氷河は前進と後退を繰り返している。そのたびに、ダム・アップが起きる。ミラドルが出发点。70mのカービングと湖への落下。

国立公園の入場料 30ペソ

（4）観光の問題点

町がスプロール化しているのに路線バスがなく移動に不便。

アルゼンチンは、10年ごとに経済危機が訪れるので、今日を精一杯に生きること、将来計画は考えない。地域ぐるみで良くしようという動きはない。

観光客が増え、ホテルがふえたため、電気、ガス、水道などの観光インフラが追いつかない。停電も起きたり、今はプロパンガス供給でしのいでいる。観光の従業員の住居が不足して、キャンプ場や車に寝泊りしている。あるいは部屋代がきわめて高いので、若者たちは狭い部屋をシェアしている。この問題は、来年のシーズンまでには解決をするという。

欧米人が多いため、ホテル代が高めに設定されている。

ホテルの「苦情」が多い。高い、サービスが悪い、予約した部屋が無いなど。強気の商売をしている。無許可の宿泊施設も、営業している。

まちの歩道は狭く歩きにくい。至る所、建設ラッシュ。品の悪いデザインと色彩の観光関連の建物が多い。4軒のホステリアが集まっているところがあるが、デザインばらばら、周辺の整備もない。

野良犬、放し飼いの犬が多い。

（5）今後の取り組み

①景観の統一

地区別に基準を決めた。

- ・ 木の使用
- ・ 外観の統一
- ・ 高さの制限
- ・ バリアフリー
- ・ ISO（水の循環）

②観光業者のレベルアップ

サービスのレベルアップのため、一定の研修を受けたホテルに認定書を出していく
四輪駆動車のコースを設定する

民間の観光関係者、国の関係の空港・国立公園、観光基盤施設（市）のそれぞれが、問題点を把握して、解決を図っていく。

海外のプロモーションも昨年からはスペインで始めた。今後、ブラジル、中国に力を入れる。リオ・トルビオ（大西洋岸まで蒸気機関車が走る）とチャルテンとカラファテの3か所を結んでいきたい。（観光局談）

③オフ対策

氷河観光以外にも、乗馬、四輪駆動車などの活動をPR、冬にも、氷河観光とアルゼンチン随一の規模のスケート場（湖面）で誘客を図る。観光業者にも冬季にホテルを閉鎖しないよう協力を求めている。

6-3 ウシュアエア（フェゴ州）

町は碁盤状。道路番号がつき、わかりやすい。多くが一方通行。

（1）空港

1997年にできた木をふんだんに使用したすばらしい空港。

（2）産業

1978年に、免税特区にして工場誘致を図ったが、1990年代の1ドル1ペソ時代に、工場閉鎖。いまは完全に観光産業が中心。次いで、カニ漁業、木材。州都なので、公務員も多い。建設業も多いが、ホテルなどの観光産業に関連する。

（3）観光の状況

ここ10年で急成長。航空は250%増、クルーズは500%増。ホテルのベッド数は2倍。空路は国際線が入ってくる。港を拡張して、いまはクルーズ船が、年間に200隻立ち寄る。今年の1月は、対前年同月比で、16%の伸び。

○10-3月がオンシーズン。70%を超える。60%が外国人。アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア。日本は16位で、1,216人（2003年は、2,230人）
アメリカ人は、クルーズがほとんど。

○オフシーズンの5、6月が最低になる。7～9月は、3年前に、新しいスキー場ができたので、増えてきた。冬は、1週間のスキーの長期滞在が多い。アルゼンチン人の来訪が最も多く、ついでブラジルから。しかし、アルゼンチン人が一番文句をいう。現在は、9月～4月までのオフ期は、20%以下だが、以前は冬にホテルを閉めていたが、いまは開いている。今年、4・15～30日まで、世界的なクラシック音楽祭を開催。初めての試みだが、定着させたい意向。会議室は、唯一の5つ星ホテルは1000人収容。

夏は2-3日。カラファテへの夜便があるので、宿泊平均は1.5泊になる。

南極へのツアーはここから90%が出ている。

(4) 宿泊施設

2004年現在、95軒、3,295ベッド。来年までの1年間で、81軒、2,135ベッドが増える。増加は3～4つ星とホステリアが多い。

	計	5つ星	4つ星	3つ星	2つ星	1つ星
ホテル	15	1	3	6	4	1
ホステリア	13			5	2	6

アパートホテル 6

Hospedajes(民宿形態だが、水準はホテル) 9

Cabanas(貸し別荘) 12

Refugious de monntana(ユースホステル) 1

B&B 24

(5) 旅行業者

36社。このうち10社は、今シーズン開業。これまで潰れた会社はないが、これから出るだろう。南極ツアーの売り上げに占める割合は多くはない。旅行業の登録は国、州に商業の許可、市に場所の許可を求める。

Rumbo Sur 社 当地最大の旅行会社。日本人も最も多く扱う。ブエノスアイレスの日系の旅行業者が送ってくれる。

日本人が他国の旅行者と違うのは食事。とにかくカニを出す。日本語による情報は、ブエノスアイレスの旅行会社がやってくれる。

ウシュアニアへ来る日本人旅行者は、パタゴニア観光が中心。

南極ツアーは10日間、15日間になるとフォークランド諸島が、21日間になると、さらにジョージア諸島が入る。

(6) 参加ツアー

①「世界の果て号乗車と国立公園周遊」ツアー

「世界の果て号」の評価はCクラス。実質30分乗車、20分途中休憩し、滝、先住民族の住居（レプリカ）を見る。列車はディーゼル。小型の可愛い列車。

「国立公園」の評価、前半（ロカ湖からラパタイア湾までの散策）はCクラス。

後半（ビーグル水道クルーズはBクラス。食事はよい。オタリア（アシカの仲間）と海鵜の群れを見る。ペンギンの島までいけばAクラスか。

②「ビーグル号の冒険」（ミュージカル）観賞

演出や建物の雰囲気はよい。演技者がまだ素人集団。食事や飲み物に、ビーグル号当時のストーリーがあるが、説明が不十分。

(7) 観光ルート

ウシュアニアでは他にエスコンディド湖とエスタード島を中心にプロモーションを進めていく。カラファテとバルデス半島との連携を強めている。

今後、注目するところは次のとおり。

- ・エスタード島

- ・40号線が舗装中一湖、壁画が多い
- ・プエルト・デロアート 動植物、化石の森

チリとの関係では、プンタアレナスと姉妹都市だが、アクセスが悪いのであまり流れは多くない。チリが軍事基地のポートウイリアムスに観光客をよんで、最南端を売り出そうとしているが、ウシュアイアの空港、港湾、ホテルの整備状況からみて、問題ではない。チリも単なるエコツーリズムと、少人数を相手にするもの。

(8) 課題

人口が急増したので長期計画ができなかった。1970年代、7千人の人口が、現在5万人。国際級のホテルが不足。

ガイドが少ない。特に、外国語が話せないため、ガイドをブエノスアイレスから呼んでいる。家付き、航空代持ちで来てもらっている。12月から3月までの契約。

サービスの悪い業者は、どんな規制をしても、抜け道をつくる。

観光案内所は夜の10時まで開いていることは評価できる。

6-4 パタゴニア観光機構

通常のパタゴニアより広い範囲のラ・パンパ州を加えた南部6州からなる。ここの機能は弱い。国外でも展示会などで、パタゴニアの代表が来ているという飾りだけ。6州から選ばれた一人が勤務。バルデス半島、カラファテ、ウシュアイアを回るコースを提案して、それぞれが思惑があって、うまくいってない。

アルゼンチンで初の海の国立公園モンテ・レオンが誕生した。

6-5 アルゼンチンの観光学科と観光産業

国立大学は通常5年、ブエノスアイレスのみさらに1年。しかし、観光学部は4年でよい。観光学部のガイド学科は3年間、ガイドの教育を受け、最後の1年に観光経営など学び、卒業するとガイドの免許が出る。旅行業を目指す人は、4年間観光経営の勉強をすると、資格が出る。

アルゼンチンでは、観光学科を卒業しないとガイドにはなれないし、旅行業を開業することもできない。国立公園内でガイドをするには、さらに地元の国立公園の試験を受けなければならない。

- ・バリローチェは2年以上住んでいないと、受験資格はない。
- ・ウシュアイアは、試験でなく研修修了証書によりガイド可能。
- ・カラファテは試験。カラファテと州のこと、国立公園に関する試験。登録は5年間のみ。5年後に、再試験がある。

カラファテで旅行するときに、旅行業者に頼むと必ずガイドがつく。10人以上は絶対である。タクシーに頼み、旅行するには、モグリでもよいが、そのうちの誰かがガイドをし

てはいけない。料金は、語学と時間で決まる。ガイド協会で料金を統一。

最高級ホテルのロス・ノートロスで、「従業員確保をどうしているか」と尋ねたところ、「幸い、観光学科の学生が来てくれるので、うまくいっている」と答えた。

第7章 その他観光資源調査

7-1 ピリアポリス Piriapolis

(1) 宿泊施設

Argentino Hotel Piriapolis

Rbla. de los Argentinos CP20200

Tel(043)22-791 Fax(043)23-107

www.argentinohotel.com

e-mail:reserves@argentinohotel.com

1930年創設、健康のための施設（温泉、ルーマニア療法）が完備されている、現在サービスは他のホテルと変わりなくさまざまな施設が設置されている。規模が大きく、内装は歴史を感じるコロニア風のつくり、天井も高くステンドグラスをあしらった正面の階段がすばらしい。ダイニング、ティールームも落ち着いた雰囲気。部屋の内部は立派とはいえないが、当時を忍ばせるアンティークの家具が何の気なしに使用されている。

全300室（スイート56室）

プライベートプール

海の温泉

パブリックプール

フィンランド風のサウナ

スポーツ・ジム、水中ジム

テニスコート、パドレ、バレーボール、サッカー場

氷のスキッドトラック

TV、ケーブルTV、ビデオルーム

ビジネスセンター（インターネット）

プレイルーム

図書館

カジノ

浜辺の駐車場 24時間監視体制

ガレージ 24時間サービス

Kids Club ダンス、サッカー、ビデオゲーム、ビデオ教室、レクチャー教室、保育室、12歳以下の子供向けのディスコ、養護施設



フロントから昇る階段のステンドグラス コロニア風の高い天井

7-2 プンタ・デル・エステ Punta del Este

(1) 概況

夏のシーズン中は、ウルグアイ国内の高額所得者、外国（メルコスール域内、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ）人観光客のメッカとなっている。昼、夜を問わずのエンターテイメントが充実している。シーズン中は出稼ぎ労働者もウルグアイ各地から訪れる。（レストラン従業員、すし職人、ホテル従業員など）

対照的に閑散期は人も少なく町としてまったく活気が無い。

(2) 宿泊施設

Hotel Conrad Punta del Este

Parada 4-Playa Mansa

Punta del Este, Uruguay. 20100

Tel(598 42)49 11 11 Fax(598 42)48 99 99

Fax.reservas(598 42)49 08 03

e-mail:conradpde@conrad.com.uy

www.conrad.com.uy

アメリカ風の大規模ホテル。内装も、サービスも、施設も充実している。ホテルにいながらにして全てのサービスを受けられることが人気とのこと。シーズンにはイベント、コンサート、ショーが開催されている。各種会議、大規模なイベントが開かれている。紀宮様も宿泊されたホテル。室内は明るい色合いで統一されており、全ての部屋から海を眺めることができる。（オーシャンビュー）高層階からの眺めは良い。

全 302 室（内スイート 24 室）

屋内プール、屋外プール

サウナ、スポーツ・ジム、エアロビクス

テニスコート夜間照明施設

マッサージ（アロマセラピー、スウェーデン式）

ファッションショー
国際アートショー
メガ・コンサート
世界ボクシングショー
ビジネスセンター（インターネット）
ラスベガス風カジノ

L'Auberge

Parada 19 de la Brava – Parque del Golf – C.P.20.100

Tel(005892)42 482601 Fax(00598)42 483408

e-mail:lauberge@laubergehotel.com

<http://www.laubergehotel.com>

プンタ・デル・エステにあるホテルとは思えない、イギリス風の落ち着いたホテル。以前給水塔として使用されていた塔をホテルにしたもの。塔自体もレンガで作られ、内装も古いイギリスウェールズを思わせる雰囲気。中庭もイギリス庭園を思わせるハーブが植えられており、気持ちが良い。海岸沿いのにぎやかな雰囲気から離れ、ゆっくりとイギリススタイルのお茶を楽しむティールームも中庭に面している。部屋はヨーロッパ調のかわいらしくこじんまりとしていて気持ちが良い。

全 36 室





7-3 プンタ・バジェナ Punta ballena

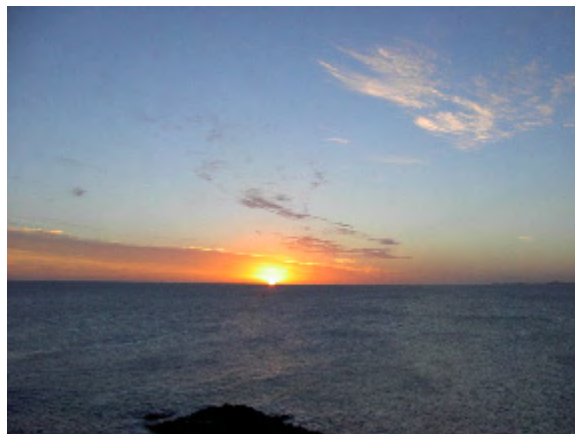
(1) 宿泊施設

Hotel Casapueblo

ウルグアイ・アーティストである Carlos Paez Vilaro の家、アトリエとして、また友人を招くために建てられた奇妙な概観の建物。

プンタ・バジェナは夕日を見る絶好のスポットで、多くの人たちが日没の時間帯に集まっていた。アーティスト Carlos Paez Vilaro の作品が展示された、博物館もある。

レストラン：Las Terrazas お料理はとてもおいしかった。内容は、イタリア料理、海の幸も出される。レストランのロケーションは、ちょうど海を眺めながらの食事が楽しめる。夕食は 20:30 からなので、夕食が終わるとかなり遅い時間になる。ウルグアイの夕食は一般的に遅い。



夕日を眺めに多くの人が訪れる

Hotel San Rafael

Playa Brava y Parada 12 Punta del Este

http://www.hotelsanrafael.com.uy/menu_eng/menu_eng_set.htm

1945 年創業

1967 the meeting of Presidents of the Americans

1994 GATT negotiation OAS meetings, the Interparliamentary Congress

も注目すべきホテル

7-4 コロニア・デル・サクラメント Colonia del Sacramento

(1) 移動手段

COT: バス会社

9:30 モンテビデオ発* 12:00 コロニア着 料金: 運賃 141 ペソ + 乗車権利 10 ペソ

17:30 コロニア発 20:00 モンテビデオ着 料金: 運賃 141 ペソ + 乗車権利 8 ペソ

*モンテビデオ TRES CRUCES バスターミナル発

コロニアのバスターミナルから徒歩 5 分の場所にコロニアの Tourist Information があり、地図などを無料で提供してくれる。旧市街について詳しい説明は無かったが、親切に対応してくれる。



徒歩で港の旧市街まで 10 分程度。

(2) 旧市街の町並み

町並みは古く情緒がある。歴史遺産の建物は、Art Gallery D-los susporos Rancho D arte となっており、雰囲気がい。建物の中には絵画、民芸品が展示販売されている。

調査期間中がウルグアイの Semana Turistica 1 週間のお休み（日本のゴールデンウィーク）のため、コロニアはにぎわっていた。

物価はモンテビデオより多少割高、街の中で英語も聞かれた。

(3) 宿泊施設

Pozada Plaza mayor

Tel(00598)52-23193 Fax(00598)52-25812

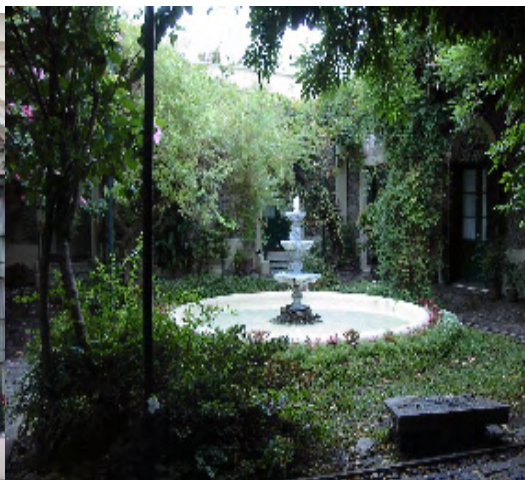
www.hotelplazamayor.com.uy

e-mail:hmayor@adinet.com.uy

コロニア風の建物で、中庭（パティオ）には噴水があり、そこはジャスミンのいい香りに包まれている。一方ビジネスセンターも 24 時間サービスとなっている。ブエノスアイレスから 50 分、モンテビデオから 178k mが売り。モンテビデオからはバスで 2 時間 30 分。全 15 部屋



ホテル正面



ホテル中庭

（４）博物館

博物館は Plaza Mayor 周辺に集中しているので、じっくりみて回っても 2 時間あれば十分。博物館入場料は 1 日券 10 ペソで全ての博物館に入場可能。各博物館で入場の証明印を入場券に押してくれる。

1. Museo Municipal 市立博物館
2. M.del azulejo タイル博物館
3. Museo Espanol スペイン博物館
4. Museo Portugues ポルトガル博物館
5. Archivo Regional 地域資料博物館
6. Casa Nacarello ナカレジョの家
7. Museo Indigena M.Paleontologico real de S. Carlos. インディヘナ博物館

それぞれの博物館の規模は小さいけれど、展示されているものは歴史を感じるものばかり、南米大陸の歴史、スペイン人、ポルトガル人の野望と戦略の歴史を感じることが出来る。博物館の受付担当者がスペイン語、英語（スペイン語混じり）の簡単な説明もしてくれる。各博物館に訪問の記帳ノートがあったが、日本人の記帳も見られた。受付担当者の話では、日本人旅行者も団体、個人で訪れているようだった。

（５）お土産品

お土産はコロニアならではのものは少なく、全国から集められた民芸品が売られている

感じで、特に興味深いものは見当たらなかった。以下がめぼしい店舗。

“Cosas Nuestras”

Distinction in “Alpaca” with bone’s pieces, Turtle’s skin, “Mulita”, “Guampa”, and silver’s jewel,

“Casacuero”

革製品 支店はコロニアのほか、モンテビデオ、プンタ・デル・エステ

“Queso Colonia”

コロニアはチーズで有名（酪農地区のため）



(6) コロニアへの日本人誘致

ブエノスアイレスからの日帰りツアーが最も可能性が高いと思われる。

Buquebus で約 50 分、船で国境を越えるのは楽しみだと思われ、そこが世界遺産に登録されているとなると、魅力があるはず。絵葉書など充実させ、コロニアのスタンプや、コロニアの消印を押してくれる郵便局や郵便サービス施設があると旅の良い記念になる。アルゼンチンにはないコロニア料理の提供、コロニア特産のワインなどの提供する素敵なレストランでゆっくりできると良い。アルゼンチンペソ、米ドルの両替も簡易になると良い。

アルゼンチンの BOCA、ウルグアイの COLONIA それぞれの港町を回るツアーも考えられる。

モンテビデオからのツアーの場合は、コロニアに一泊、翌日午後アルゼンチンへ。または早朝モンテビデオ出発し、午後コロニア見学、夕刻アルゼンチンへ。モンテビデオからの約 2 時間 30 分の道のりは特に面白みのない国道なので、あまり勧められない。今回は、コロニアに宿泊できなかったが、コロニアのホテルは快適の由。

(7) その他

約 30 分毎に Porton de Campo 1740 から Museo Municipal まで衛兵の行進があり、観光客を楽しませている。多少のエンターテイメント性が見受けられた。



7-5 サルト Salto

(1) 移動手段

12:30 モンテビデオ*発 18:50 サルト着 料金：運賃 352 ペソ

12:30 サルト発 18:30 モンテビデオ着 料金：運賃 352 ペソ

*モンテビデオ TRES CRUCES バスターミナル

(2) Salto “Turismo todo el ano!!!”

サルト “年間通じて楽しめる観光地” というキャッチコピー

ウルグアイの北西に位置している。メルコスールのおよそ中心に位置する。モンテビデオから約 500km で、観光、生産力のある地、生態系を守る県として1837年に設立。ウルグアイとアルゼンチンの間を流れるウルグアイ川の北の沿岸の最も美しい場所である。

サルトはウルグアイの商業都市で柑橘系の果物や、パイサンドウ (PAYSANDU) の製菓工場など産業も発達している。町自体かなり大きく地方都市という感じ。ウルグアイ川対岸はアルゼンチン。サルトの町には国境付近ということで税関などがある。ツーリストインフォメーションもあり、DAYMAN の温泉についての情報を提供してくれた。



Salto 市内観光事務所

町の中には温泉はない。観光客向けというより、ビジネス向けのホテルが点在しているよ

うだ。

水資源は Uruguay 川、DAYMAN 川、ARAPEY 川、Salto Grande 湖、DAYMAN 温泉、ARAPEY 温泉。

伝統文化を重要な博物館でとり、歴史的建築物、公園が点在し、キャンプ、フィッシングなどのアクティビティーを楽しめる観光地として紹介されている。

温泉は周辺の町サルト グランデ (Salto Grande)、Guaviyu、Almiron、パイサンドウ (Paysandu) 市内、Termas del DAYMAN、サルトから南へ 9Km や Termas ARAPEY、サルトから北へ 15km の場所に位置する。

サルトのバスターミナルへ向かう途中、Termas del DAYMAN という町を通ったが、多くの観光客でにぎわっていた。彼らの旅行スタイルは、ほとんどマイカーによるもので、家族連れが多い。バンガロー、キャンプ等野外でのレクリエーションを楽しむタイプや、温泉自体を楽しむタイプそれぞれ。温泉とは言っても水着着用、日本で言う大規模プール施設といった感がある。それでも、それぞれの水質について分析されており、効能が期待されている。

(3) 宿泊施設

Casino Horacio Quiroga Spa Termal & Casino

Tel:fax(598-73)34 411

www.hotelhoracioquiroga.com

hhq@netgate.com.uy

(4) 温泉成分

Intendencia Municipal de Salto 資料による www.salto.gub.uy

サルト地域 (ARAPEY、DAYMAN 含む。) 温泉成分

YODO ヨウ素

HIERRO 鉄

CALICO カルシウム

MAGNESIO マグネシウム

FLUOR フッ素

陰性：ARSENICO 砒素、SULFATO、硫酸塩、NITRATOS、硝酸塩その他

CRENOTERAPIA 治療

部分的な分析

水量：

ARAPEY：400,000 リットル／毎時 2NAPAS 深さ 725&1300MTS

DAYMAN：160,000 リットル／毎時 1NAPA 深さ 2000MTS

色：無色、大部分は青みがかったり。

味：感じが良い

臭い：無臭

温度：ARAPEY 41℃ DAYMAN 46℃

固形物：無し

沸騰後の様子：澄んでいる

油性：少量感知できる

治療上の使用法：飲料として／鎮静剤、消化、利尿作用として優れている

湯治：刺激、過敏でない、滑らかで刺激がある。一般的にリュウマチに効果がある

(5) DAYMAN

町の中心から約 10 分の場所に、バンガロー、ホテル、別荘やキャンプ場、レストランがある。ウルグアイの温泉としては最高 44℃までの種類豊富なプールがある。熱さと塩分は病気を改善する効果がある。特別なアメリカの温泉である。

町から DAYMAN の温泉まで、市営バスの往復が頻繁にあり、サルト市内から温泉地へ通勤している人が多い。

2005 年 3 月 20 日から 4 月 27 日（観光週間中）の運行時刻表 料金 14 ペソ片道

サルト — termas DAYMAN — サルト

6:30 ～23:30 の間 30 分おきに運航している。

Los Naranjos Resort Spa Termal

Tel:fax(598-73)69 999

www.losnaranjos.com.uy

reserves@bwlosnaranjos.com.uy

Hosteria aguasol(apart hotel)

Tel:Fax(00598)73-69145-69155

www.aguasol.com.uy

e-mail:aguasol@adinet.com.uy

2pp usd 30standard

usd40 especial



Casablanca

Tel:(00598)73-69325

e-mail:cablapart@hotmail.com

2pp usd 35standard



Hotel TERMAS DAY

Tel:Fax(00598)73-69250-69870

www.hoteltermasday.com

e-mail:hotelday@adinet.com.uy

2pp usd 30standard

usd40 especial

市営 TERMAS の目の前にあるので、場所は分かりやすい。

(6) ASAPEY

丘、田園、公園、川に囲まれており、ホテル、バンガロー、キャンプ場がある。屋内プール、空調設備、レストラン、コミュニケーション設備が整っているホテルがある。競技用プール、子供用プール、39℃までのさまざまな温度のプールがある。



salto 市内バス停



DAYMAN バスターミナル

(7) TERMAS DEL DAYMAN

日本の大規模プール並みの規模でにぎわっている。水着着用、ゆったりとしたラテン音楽、陽気なラテン音楽が流れ、ウルグアイ人、アルゼンチン人でにぎわっている。市営温泉では、入場料 72 ウルグアイペソで一日楽しめる。温泉自体は微量の硫黄臭はあるけれど、無色透明できれい。芝生もきれいに整備され心地よい施設。プールは温度によっていくつか分かれており、多くはぬるめの温泉（プール）につかりのんびり話しをしては、プールから上がって、デッキチェアでマテ茶を飲みながらまたのんびり話をするというスタイル。温泉の施設内にはアサード（バーベキュー）のレストラン、カフェテリアも常設されており、一日楽しめる。

日本人にとっては、タオル、バスローブの貸し出し、ロッカーの使用に関する点（全て別料金）などで戸惑うことが想定される。



(8) SPA について

市営温泉に隣接する私立の SPA(Complejo Medico Hidrotermal DAYMAN)。ドル、アルゼンチンペソ、ウルグアイペソともに使用可。DAYMAN の一般的なホテルと提携関係を結び、提携ホテル宿泊者には特別料金を提供している。通常の料金は、モンテビデオやコロニアなど他の観光地と比べやや高め。

1 日、3 日、一週間のコース料金も設定している。

施設自体も質素、豪華な感じはない。サービスについて事前の解説をしてくれる。(スペイン語) オイルマッサージ、スチームサウナ、高温サウナ、ジェットバス、フェイシャルエステなどサービスがある。

オイルマッサージ (20 分)、ジェットバス (20 分) 料金は合計 USD15 を体験したが、満足できるものではなかった。シャワー、トイレなど基本的な施設についての整備も必要。5 つ星ホテルにはもちろんホテル内に SPA 施設があるので、日本人観光客は 5 つ星ホテルに宿泊し、その施設でゆっくりするのが望ましいと思われる。



入り口



マッサージ



専用シャワー室

(9) お土産

柑橘系の果物、蜂蜜、果物のコンポートの瓶詰め、革製品など素朴で安価。特に際立ったものはない。

(10) 観光地として

モンテビデオからバスで約 6 時間 30 分。国道 1 号線と 3 号線で北上。とうもろこし、オレンジ、レモン、大豆、ひまわりなどの畑、GRANJA 牧場が続く。特に風景を楽しめるところはない。しかし途中リオ・ネグロをわたるため、ウルグアイの中では広大な流れをバスから見る事ができる。リオ・ネグロの動物(野鳥・魚類)のツアーを途中に入れ、最終目的地をサルトとする。または、そこからアルゼンチンに入るというツアーも面白いかもしれない。アルゼンチンの北部にはコルドバ、ロサリオなどがある。また、ブラジルのポルトアレグレまでのバスルートもあるため、アルゼンチン、ブラジルと組み合わせたツアーは考えられそう。ただサルトの温泉入浴だけのために観光客は呼ぶのは距離、資源自体の魅力からいって難しい。



特産品オレンジをモチーフにした民芸品

主要都市からサルトまでの距離

アルゼンチン

Cordoba 621km

Rosario/Victoria 370km

Buenos Aires 482km

Parana 295km

ウルグアイ

Chuy 839km

Montevideo 498km

Colonia 420km

Fraybentos 236km

ブラジル

Uruguayana 210km

Buenos Aires(アルゼンチン)から Porto Alegre(ブラジル)までのバスも走っている。

Coit Viaje & Turismo

Buenos Aires (Retiro)bol.206: tel.0054 11 4312 6876

Terminal Porto Alegre: tel.0055 5 3211 5766

(11)その他

サルト市内博物館

1. Museo de Bellas Artes y Artes decorativas アート博物館
2. Edmundo Pratti 彫刻博物館
3. Historico Municipal 市立歴史博物館
4. De Arqueologia y ciencias Naturales 考古学、自然科学博物館
5. Museo Carlos Gartel カルロス・ガルデル博物館
6. Museo del Rio 川の博物館
7. Museo del Hombre y La tecnologia “Arq.Nestor J.Minutti” 人類・技術博物館

8. Museo del Teatro Larranaga ララニャガ劇場博物館

町並みは古く情緒はあるが、歴史的建物、博物館ともに日本人観光客の観光素材となる
とは言い難い。

調査中はウルグアイの **Semana Turistica** 1週間のお休み（日本のゴールデンウィーク）
のため、サルト、DAYMAN 温泉地は非常ににぎわっていた。ただサルトは観光局として通
年楽しめる観光地としているため、平均して観光客があるか否か確認し、他国の観光地と
組み合わせた商品を造成する場合、日本人観光客誘致として最も好ましいと思われる時期
を見つけることが重要。まだメルコスール域内観光客をターゲットとした開発のみにとど
まっている感がある。

7-6 ブエノスアイレス

(1) 宿泊施設

Alvera palece Hotel

“The most recognized hotel on Latin America”

Alvear Ave 1891(C1129AAA)Buenos Aires

Tel(54.11)4808.2100 Fax(54.11)4804.0034

www.alvearpalece.com

e-mail:info@alvearpalece.com

さすがに老舗という趣のホテル。ドアマンも背高帽をかぶりゲストを案内してくれる。
ホテルの内部は豪華だが、落ち着きのある装飾。天井も高く重厚な雰囲気。カフェは中庭
にも続いており、木漏れ日をあびての朝食、ティータイムを楽しめる。地上階にあるショ
ップは洗練されており、一流品の買い物が楽しめる。日本の有田焼の装飾壺もあり、落ち
着いた内部の雰囲気にマッチしていた。

1932 創業

85 室

125 室スイート

Four Seasons Hotel Buenos Aires

Posadas 1086/8 Buenos Aires

Wwww.fourseasons.com/buenosaires

1992 年創業

138 室

Park Tower Hotel

Avenida Leandro N.Alem 1193 Buenos Aires 1001 Argentina

www.starwood.com

181 室

Emperador Hotel

Avenida de libertador 420 Buenos Aires 1001 Argentina

www.hotel-emperador.com.ar

270 室

2000 年創業

Loi Suites recoleta Hotel

Vicente lopez 1955 Buenos Aires Argentina

112 室

Sheraton Hotel

www.Sheraton.com/buenosaires

San Martin 1225 Buenos Aires 1104 Argentina

739 室

1970 創業

Hilton Hotel

Avenida macacha guemes 351 s/m Puerto madero Buenos Aires Argentina

www.hilton.com

421 室

2000 創業

Crown Plaza Panamericano Hotel Buenos Aires

c.pellegrini 525 1009 Buenos Aires Argentina

www.crowneplaza.com.ar

400 室

1998 創業

Sheraton Libertador Hotel Buenos Aires

Cordoba 680 Buenos Aires 1054 Argentina

143 室

1978 創業

Claridge Hotel

Tucuman 535(c1049 aak) Buenos Aires Argentina

www.claridge.com.ar

161 室
1946 創業

Marriott Plaza Hotel

www.marriott.com
Florida Street 1005 Buenos Aires Argentina
312 室
1909 創業

Intercontinental Hotel

Moreno 809 1070 Buenos Aires Argentina
www.intercontinental.com/buenos aires
686 室
1994 創業

Caesar Park Buenos Aires

Pasadas 1232/46
www.caesar-park.com
178 室

Etoile Hotel

Presidente M.Ortiz 1835
www.etoile.com.ar
96 室

Faena Hotel+Universe

Martha Salotti 445,Puerto Madero
www.faenahotelanduniverse.com
83 室

(2) Subte 地下鉄

Subte.com.ar

<http://mapas.metrovias.com.ar/subte/metronet/reccorido.asp>

B ラインに使用されている車両は、以前東京メトロ営団地下鉄丸の内線で使用されていたもの。日本の丸の内線と同様、赤いラインで示されている。

乗車駅 URUGUAY 降車駅 L.N.Alem 終点

地下鉄の駅も、構内もとても清潔で、料金は1度につき70 センターボと安い。

1913 年に開通 Subte

Metrovia に委託されて 11 年

(3) Caminitos カミニート

<http://www.beisbolprofesional.net/eventosinternacionales/turismocen.htm>

初めて観光地らしい場所にやってきた。さまざまな国からやってきたと思われる観光客でにぎわっていた。カミニートの小道には画家の作品が並び、タンゴのパフォーマンス、パントマイムなど披露されている。建物の色もさまざま面白い。

1852年から移民が始まり、それと共に産業が発達した。途中、Boca Juniors Club Athleticのサッカースタジアムを通った。日本の国立競技場のように当日行われる試合を待っているファンの列があった。

スタジアム名 : Alberto J. Armando

住所 : Brandsen 805, capital federal

1940年5月25日オープン

57,395人収容

(4) Teatro Colon コロン劇場

www.teatrocolon.org.ar

1908年オープン

フランス・ルネサンス様式

2500人収容

毎日英語ガイドのツアーあり